

## ★トレイルランニングについての報告★

平成 27 年 3 月 8 日

岡山スポーツフォーラム

村松 達也（文責）

### 1) 日本トレイルランニング会議（トレランジャパン） 2月13日岸記念体育会館

主催は「日本山岳協会」参加者約 50 名。

#### <内容>

- ・挨拶、
- ・講演（江戸川大学：後藤新弥「加速する限界挑戦型スポーツ」）、
- ・日山協のトレイルランの取り組み  
7年間「トレイルラン小委員会」として調査などの活動  
東京都からの公園使用についての意見聞き取り  
（警察や行政機関との調整が必要なので、日山協から大会主催ガイドラインを）  
ルール案（トレイルランニング指針）の作成・・・別紙①

#### <質疑応答／意見交換>

問）警察や行政だけでなく、地元の管理者や利害関係団体との調整を重要視すべき

問）ルール作り、組織作り、ガイドライン作りの進捗状況は？

⇒答 まだまだ、これから。日山協内部でもなかなか進まないの、協力を。

問）ジュニアの育成をどう考えているか？

⇒答 まだまだ、これから。

問）地元登山道の保全者と友好的関係をもつべき。

そのほか、ルールの適用時期は？区分けはどうなるのか？累積標高は？といった質問も。

#### <感想>

全体として、宮地理事長（日本山岳スポーツ協会、ハセツネ実行委員長）個人がリードしている団体。多くは高齢の日山協幹部。彼らによると、いくつかの大会の開催実績があり、国体から種目が外された縦走競技のかわりに、トレイルランを種目として復活させたい。

また、今後の方向性について、「今までの経緯を考えると、『日山協がリーダーシップを発揮し、選手登録や選手派遣の基準やルールのスタンダードづくり、選手強化の取り組みをしなくてはならない』という意見。

ただ、日山協内部ではいろいろと不整合があるようすで、宮地氏のリードによる「協会」の設立、という方向になりそう。

## 2) 国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取り扱いについて

主催は環境省国立公園課、参加者多数 2月14日渋谷区(17日は不参加)

### <内容>

国立公園は守るべきものではあるが、多くの利用者を楽しんでもらうものでもある。豊かな自然を後世に引き継ぐことは、わたしたち世代の責務で、何百年以上もかかって数十センチしか形成されない山岳土壌は極めて貴重で脆弱。通常の登山活動でも影響を受けることがあり、土壌浸食や登山道の拡幅が起こると、取り返しのつかない影響もありうるが、それは絶対にあってはならない。

しかし、可能な範囲で登山など各種スポーツを楽しめることも、国立公園の意義。

昨今、問題となっているトレイルラン大会の増加を鑑み、今回の指針を発表。

トレイルランニング大会を開催する場合は、大会を企画する段階から関係各所が互いに話し合い、軋轢を生じさせない解決策を見つけてほしい、とのこと。

詳しくは、別紙②。

(コース設定、自然環境や動植物への影響、他の使用者への影響についての配慮。主催者・選手・応援者の順守事項も明記)

### <質疑応答>一部

#### 問) 大会を開催する判断基準について

- 1、地域は普通地域も含めるのか？(特別保護地区、第1種～第3種特別地域、以外)
- 2、自然環境等への影響について、判断基準は？
- 3、他の利用者の安全確保の判断基準は？

⇒答

1について、

保全対象として重要な自然環境である場所、  
歩道の複線化や拡幅が懸念される場所、  
既に先掘を受けている場所等、  
負荷に対して脆弱な環境である場所、  
崩落や落成のおそれのあるガレ場、  
傾斜地で狭隘な路線区間

これらでは、普通地域であっても避けてほしい。

2と3について

多様な事例があるため、具体的な判断基準はここでは示していない。それぞれの地域の状況に応じた対応が必要。

問)

1、環境省はトレイルランニングをレースと捉えているのか？

2、参加者の人数についてはどう考えているか。

3、モニタリングのポイントは主催者が決めるのか。どう決めていくのか。

⇒答

1について、トレイルランニング＝レースとは捉えていない。トレイルランニングを競技と定義する動きもあり、そういった動きと連携しながら進めていきたい。

2について、人数については、各地域の自然環境や利用実況を踏まえて考えることが必要なので、ここでは明記していない。他の利用者の快適で安全な環境を妨げないことが重要だと考えている。

3について、モニタリングポイントについては、開催地域の自然環境や大会内容に合わせてモニタリングポイントや項目を設定することが大事だと考えている。土壌、動植物、水質や景観の変化、大会の規模や内容、地域の状況によって選ぶ必要がある。ポイントも関係各所と調整しながら決定するのが望ましい。

問)

1、使用許可についてはどうなる？

⇒答

大会の際、自然公園内に案内表示やトイレを設置したり、ロープをはったりといった工作物を配する場合、必要。

問)

1、今後、このガイドラインを指針として打ち出すのか？

2、このガイドラインに準じた配慮を行えば、大会を開催してもよいという意味か？

3、直接土壌に影響があることもあれば、5年後10年後に影響がでることもある。

年数経過については、どう考えているか？

⇒答

1、あらためて整理した上で、文書としてまとめ、地方環境事務所が運用できるよう発信。

2、環境省としては大会を排除するということではなく、公園の利用のあり方や自然環境を考慮した上で、トレイルランニング大会がよりよいものになれば。

3、経過調査もケースバイケースだと考えている。こういった科学的調査はまだ不十分であるので、今後、モニタリング結果を集めて政策に役立てたい。

問)

現在の国立公園はトレイルランニング大会のような集中利用を想定していないということだが、今後の公園計画ではトレイルランニングのような新しい動きにどう対応していくのか。

⇒答

これまでは、大勢が同時に走ることを想定せずに計画設定していた。国立公園の計画の中には自転車道もある、トレイルランニングにも望ましい道があるだろう。国立公園を今後どう管理していくか、地元団体、自治体とともに国立公園のビジョンをつくっている。優れた自然をいかに傷つけずに、いろいろな楽しみ方を持つ人たちに利用してもらうか、検討の余地がある。トレイルランニングに積極的に取り組んでいる自治体などでは、問題が生じないように快適に走れる場所を開拓する努力をしているケースもある。

国立公園はただ守るだけの場所ではなく、さまざまな楽しみ方の人たちに楽しんでもらう場所だと考えている。自然の中で走りたいという人が増えているのは事実なので、それに対応する国立公園像を目指すのも私たちの役割のひとつ。

バランスをとりながら、さまざまな意見を聞いて一つひとつ解決すべき課題だと考えている。

問)

自分は国営公園の環境保全にとりくんでいるが、登山者の中ではトレイルランニングに反対する声が多い。国立公園以外にも多種の動植物がいる。それらにも、もっと目を向けて欲しい。狭いトレイルを走らないで、車道など広い道を走ればいいのか？

⇒答

国立公園以外にも同様の問題が起こりうる可能性はあるだろう。今回の指針が、他の地域の大会にも波及することを期待している。情報を蓄積しながら、改善を進めていく。（※国営公園は管理者が外郭団体）

### 3) トレイルランナーズ協議会（仮）について

主催は同設立発起人会、参加者約30名 2月27日立正大学品川校舎

#### <内容>

昨今のトレイルランニング人気と共に各地で数々の課題が生じている。

これらの課題に対応し、トレイルランニングが市民スポーツ文化として根付くことを目的に、「トレイルランナーズ協議会」（仮称）を立ち上げる、という趣旨で呼びかけられた。

#### 具体的には

1、トレイルランナー自身が、競技以外の場も含めてトレイルランの健全な普及と発展に努める開かれた組織。

2、他の競技団体や環境保全団体などトレイルを共有する様々な方々と連携して、新たな文化の確立を目指す。

3、日山協の団体と対立するものではないが、競技性の強い日体協の加盟を目指すのではなく、市民レベルでトレイルランという新しいスポーツ文化の創造を目指す。

・・・発起人会の趣旨は別紙③

#### <意見>

◆ トレイルランナーマナー実行委員会程度でいいのでは？（別紙：佐藤光子）

◆ 日山協の動きが、今の課題を解決する方向に動いていないので…。これからどう対応するかは、話し合いで。マナー問題は今一番求められている問題。（三浦）

◆ 危機感とは、環境に対する影響が大きいからと批判を受けているからなのか？自由なトレイルランをどこかの機関が妨げようとしているからなのか？（内坂）

⇒ 環境省説明会の空気では、基本的に大会開催 NG だが、ルールや手順を守れば、開催できる。しかし、反対側からすれば NG だから開催不可、という議論になるだろう。お役所や批判団体と、対等に話ができる組織が必要ではないか。行政からも求められている（鎌倉市のトレイルランの規制を条例化案）。 …環境問題より住民反対派からの危機感？

日山協の会議がやってくれればよいのだが、そちらには向いていないらしいので、こういう組織の呼びかけとなった。（三浦）

◆ 日本を代表する組織として設立すればよいのでは？（内坂）

⇒ そういう選択肢もあったが、そうすると二つが対立する。連盟などの全国組織となると、まだその時期ではないだろう。日山協にしても同じだが、組織としては県岳連を動かしてやらざるを得ない。それでは、そこに属さない人や地方の意見の受け皿が必要だから、というのがこの協議会のコア。（村越）

⇒ トライアスアロンのように二つ組織が対立すると一本化に時間と労力がかかる。日山協の動きは、県岳連単位でトレランの活動の動きがある。しかし実際の愛好者は日山協に加盟しているわけでない。大会とは別に、ランナー自身が自分を律し、大会にフィードバックや指導ができるようなランナーによる組織が必要だ（村松）

- ◆ 福島県では、県岳連とトレイルラン NPO が友好的な関係にある。県によって違いがあるようだ。各地の山岳会は高齢化が進み、活動に若いトレランクラブを期待している。しかし若いランナーは、ちょっと違うのではないかと思っている。フィールドは一つなのでぎくしゃくする地域もあるのではないか。(真船)
- ◆ 北海道で活動しており岳連の理事もやっているが、日山協の会議には声がかからない。一部の人たちだけで進んでいるのではないか？中央だけで決めて地方には伝わってない。岳連参加の団体は高齢化も進み、人数も減少しているなかでトレランクラブの人数は増えている。財政的にも厳しくなっているので岳連主導で、財源のためのトレラン大会を開催している状況。日山協はトレランを資金源としたいのではないか？(武田)
- ◆ 群馬岳連はトレランに理解があるが、環境部門からは脚を引っ張られている。内部矛盾がある団体がトレランの行き先を任せられない気がする。専門的な部分で相互に補完できる組織になることが望ましい(鏑木)
- ◆ 登山道の清掃などやっていると、「あなた達はレースのためにやっているので環境活動をやっているのではない」という批判を受けた。言葉の行き違いや感情論で対立している。大会で儲かるはずはないのに、儲かっていると誤解されている。なので環境保護負担金一人 300 円を提供している。(山梨)
- ◆ 大会で儲からない。財源は難しい問題で、この協議会についても大きな問題(三浦)
- ◆ 千葉でも岳連とともに 1,000 人規模でやっているが、儲からないが、環境負担金は提供しながら、岳連とうまくやっている。場所によってはうまくできていないところもある。
- ◆ 宮地氏と直接話をしたか？(ルール活動の確認や、協議会設立の打診はしたか)
- ⇒ 直接はやっていないが、ルールなどについては活動の予定はありそうだ。(三浦)
- ◆ コミュニケーションをとってみれば分かり合えるのではないか？それがだめだったら、設立に動いてはどうか？
- ⇒ 日山協は OL 協会のシンポにも三度参加している。幹部との話では、日山協の内部ではどういう組織にするか決めていない(トレランの国体参加を考えるなら、体協加盟が必要なので、内部では無理)。トレランは自由で新しいスポーツのはずなのに、自分を縛るような競技団体にしなければならないのか。(山西)
- ◆ 対立しないなら組織が二つあって良いのではないか。陸連と市民ランナーというように、トレラン競技協会とランナーズ組織という風に。マラソンは公道を占有して行うが、トレランはそうではなく、他の土地を借りて走るので、そのために代表(窓口)となる組織が必要。差し迫った問題となっている現在、機敏に動ける組織が必要(村越)
- ◆ トレラン会議のバックボーンに日山協があるのではなさそう。もし彼らに任せたら、どうなるか不安。組織は人が動かすのだから、どういう人が動かしているかが重要で、実際に第一線で活動している人たちのいない会議が、トレイルランニングの未来を左右してゆくことに不安がある(鏑木)
- ◆ かれら日本トレイルランニング会議が「私達がトレイルランの代表窓口です」といって各方面と話をするようになって良いのか？

◆ そうというのが怖い。理想は彼らも一緒にまとまって統一連盟ができればよい。まずは、ここにいるいわゆる有力トレイルランナーや大会運営者が（マナー集など作り上げ）、その中で、あちらと一緒にできればよいのではないか（石川）

◆ トレイルランは自由であってほしい。宮地氏ほかと話したかが、健全なトレイルランの発展を願っているというより、ルールなど彼らの価値観を押し付けるような考え方でいるのでは？。本音は何なのかわからない。競技にこだわってルールや大会のやり方を押し付けられそうで不安だ。市民スポーツとしてやってゆけばいいのに、どうも競技一辺倒になりはしないか（福田）